

2016. 08. 06 賛歌カンダナ 7フレーズの説明

<Nirbhaya ニルバヤ：について>

Nirbhaya は「恐れがない」という意味。

「恐れ」はどうして起こるか？⇒「無知」があるから起こる

物、人への執着がある間は「恐れ」は無くならない。「恐れ」は、お金、家族・友達など「物が無くなること、人と離れる事」への不安から起こる。何も心配がないという人も、生きている限り身体への執着があるので死ぬ恐怖はある。もし身体の執着がなくなれば死ぬ恐怖もなくなる。

「恐れ」がなくなるのはいつか？⇒「執着」がなくなった時

Ni (無い) + bhaya (恐れ・恐怖) = 「恐れが無い」という意味
同様に

Vi (無い) + rāga (執着) = vairāga (ヴァイラッグヤ) = 「無執着」

お坊さんの事を「ヴァイラギ」と呼ぶのはこれから由来している。

お坊さんの事は、他にも「サンニャーシ」「サードウ」と呼ぶことがある。

「ヴァイラッグヤ・シャタカム」という「100の無執着」が書かれている有名な聖典があり、そこにはいろいろな執着の状態でいろいろな恐れが出るという例がたくさん書かれている。

① 「ボーゲー・ロゴ・バヤン」

たくさんの世俗的な楽しみ(ボーゲー)をすると、病気(ロゴ)になる恐れがでてくる。例) 飲みすぎで肝臓を悪くするなど

② 「クーレー・チュテ・バヤン」

ハイクラスの家族も、家族のだれか一人でも問題を起こすと地位がさがる。

③ 「ヴィッター・ビパーラ・バヤン」

金持ち(ヴィッター)は王様(現代は政府)から所得税として沢山お金を取られる恐れがある。また泥棒、銀行強盗などにお金を取られる恐怖。

また、名声欲を沢山持っている人(有名人、ライター、歌手など)は批評家からのレビューで批判されることを恐れる。

④ 「バーレー・リップ・バヤン」

力が強い人は自分より強い人が現れ、自分が負けるのを恐れる。

⑤ 「ルペ・ジャラヤー・バヤン」

美人は年をとることを恐れる。

⑥ 「シャストレ・バディ・バヤン」

有名な学者は自分より博学な人が現れること、議論で負けることを恐れる。

⑦ 「グネー・カラ・バヤン」

良い性質の人は、他の人からジェラシーなどで批判されることを恐れる。

⑧ 「カエー・タンタ・バヤン」

生きている間、死の恐怖がある。

【結論】

「サルヴァー・ポストゥ・バヤン・ニタム・ブヴィーニタム」
全てのものはすべての状態で恐れがある。

「ヴァイラッグヤン・エーヴァ・バヤン」

「無執着（ヴァイラッグヤ）だけで人は恐れがなくなる」という意味。

シュリー・ラーマクリシュナはすべてのものを完全に放棄していたので、ニルバヤ（Nirbhaya）、アバヤ（Abhaya）、ヴァイラッグヤ（Vairāga）だった。

<参考>

Ni、Vi、A は接頭辞で、「無、非」の打ち消しの意味

Nirbhaya と Abhaya、Vairāga はそれぞれ「無執着」の意味

接頭辞 Ni（無）＋Bhaya（恐れ・執着）＝Nirbhaya

接頭辞 A（無）＋Bhaya（恐れ・執着）＝Abhaya

接頭辞 vi（無）＋rāga（恐れ・執着）＝Vairāga